

森づくりで世界平和を

世日クラブ 宮崎林司氏が講演

世界日報の読者でつくる「世日クラブ」(会長＝近藤讓良・近藤ブランチングス代表取締役)の定期講演会が十四日、都内で開かれ、



NPO法人アジア植林友好協会の宮崎林司代表が「目からウロコの地球温暖化対策」をテーマに講演した(写真)。

は、森林の機能について、CO₂の吸収源となるほか気温調節や保水循環など多様な価値があると説明。その上で、「この地球の生態系の基本を壊しているために、世界中で飢餓や貧困が起きている」と指摘し、植林活動の重要性を強調した。

さらに、地球温暖化の影響による気象異変によって資源の奪い合いが起きたり、環境難民が日本に四、五千万人押し寄せると警告し、「まず、森づくりが大切。生態系の安定が世界平和につながる」と訴えた。

講演に先立ち、同クラブの近藤会長があいさつ。「人間社会は、個人も国家も自己中心的に動く傾向がさらに増すのではないか。この素晴らしい地球の中の一部として存在しているという意識が必要になる」と強調した。新しく副会長となった小林正元参院議員は、講演後に「古来『先人木を植えれば、後人涼し』という言葉がある。まさに今、われわれが今木を植えることによって子や孫の時代に涼しい風を送ることができるとまとめた。